第80-1回原子力規格委員会　議事録

1. 日　時　2021年12月21日(火)　13：30～17：00

2. 場　所　一般社団法人　日本電気協会　4階　A，B会議室　(Web会議併用)

3. 出席者（敬称略，順不同）

出席委員：越塚委員長(東京大学)，高橋副委員長(電力中央研究所)，阿部幹事(東京大学)，大坂（日立GEﾆｭｰｸﾘｱ･ｴﾅｼﾞｰ)，工藤(東芝ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑｽﾞ)，佐藤邦(MHI NSｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)，神坐(富士電機)，田中(関西電力)，波木井(東京電力HD)，山口嘉(日本原子力発電)，涌永(中部電力)，兼近(鹿島建設)，竹内(日本原子力研究開発機構)，三浦(電力中央研究所)，村上(東京大学)，吉岡(日本電気協会)，古田(東京大学, 安全設計分科会長)，笠原(東京大学, 構造分科会長)，山本(名古屋大学, 原子燃料分科会長)，中條(中央大学，品質保証分科会長)，久保(東京大学名誉教授，耐震設計分科会長)，上蓑(日本ｱｲｿﾄｰﾌﾟ協会，放射線管理分科会長)，山口彰(東京大学，運転・保守分科会長)　(計23名)

代理出席：三木(日本製鋼所M&E，小山委員代理)，佐藤(発電設備技術検査協会，爾見委員代理)　(計 2名)

欠席委員：なし　(計 0名)

常時参加者：なし　(計 0名)

説　明　者：原子燃料分科会 取替燃料炉心安全性評価検討会 北田主査(大阪大学)，工藤副主査(東京電力HD)，原田幹事(中部電力)，左藤(三菱重工業)，金子(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ)，大堀(九州電力)　(計 6名)

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査(原子力安全推進協会)，鈴木副主査(東京電力HD)　(計 2名)

事　務　局：都筑，高柳，中山，須澤，寺澤，平野，葛西，佐藤，小幡，景浦，米津，末光，原，田邊(日本電気協会)　(計14名)

4. 配付資料：別紙参照

5. 議　事

事務局から，本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認の後，議事が進められた。

(1)　会議開催定足数確認他

事務局より，代理出席者2名の紹介があり，規約第8条（委員の代理者）に基づき，委員長の承認を得た。事務局より，現時点で委員総数25名に対して代理出席を含めて25名出席であり，定足数確認時点で規約第11条（会議）第1項に基づく出席委員は委員総数の3分の2以上の出席という会議開催定足数の条件を満たしているとの報告があった。

また事務局より，Web会議に対する注意事項，配布資料の確認の後，第80-2回原子力規格員会は，12月23日（木）午前を予定しており，各委員の予定確保をお願いするとの説明があった。

(2) 原子力規格委員会分科会委員の承認

1) 原子力規格委員会委員の変更

事務局より，資料 No.80-1-1-1 に基づき，下記原子力規格委員の変更があるとの紹介があった。

・委員退任　　　　　　中村　委員（日本原子力保険ﾌﾟｰﾙ）

・構造分科会長退任予定　笠原　委員（東京大学）*1

＊1：分科会委員としては継続。

2) 分科会委員変更の承認

事務局より，資料 No.80-1-1-2 に基づき，下記分科会委員の変更があるとの紹介があった。

分科会委員の変更について，分科会規約第 6 条（委員の選任・退任・解任及び任期）第 1 項に基づき分科会委員の変更について，規約第 14 条（決議）第 4 項に基づき，挙手により決議の結果，全員賛成で承認された。

【安全設計分科会】

・退任　　　大山　委員（日本原子力発電）　　・新委員候補　寺門剛氏（同左）

・退任　　　中川　委員（四国電力）　　・新委員候補　青野伸幸氏（同左）

【構造分科会】

・分科会長退任予定　笠原　分科会長（東京大学）　（後任者については、選任投票実施中）

【品質保証分科会】

・退任　　　古濱　委員（東京電力 HD）

【放射線管理分科会】

・退任　　　中川　委員（四国電力）　　・新委員候補　青野伸幸氏（同左）

・退任　　　三浦　委員（関西電力）　　・新委員候補　西浦英明氏（同左）

・再任　　　高田　委員（防衛大学校）

(3) 規格案の審議

1) JEAC4215「取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程」制定案

原子燃料分科会 取替燃料炉心安全性評価検討会 工藤副主査及び大堀委員より，資料 No.80-1-2 シリーズに基づき，JEAC4215「取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程」制定案について説明があった。

審議の結果，JEAC4215「取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程」制定案を，原子力規格委員会の書面投票に移行するかについて決議の結果，全員賛成で承認された。

主な説明は以下のとおり。

・ 最終報告として，規程の概要案，原子力規格委員会からの中間報告でのコメントに対する対応を中心に，最後に最新知見の反映状況について説明する。

・ この規程については，2020 年 12 月 24 日に第 76-3 回原子力規格委員会で中間報告を実施後，規程の拡充・追記を行った。その後，分科会，検討会からコメント・ご意見を頂き，それらを反映した。最終的に，2021 年 11 月 4 日の第 50 回原子燃料分科会で，第 2 回目の最終報告を実施し，書面投票に移行し，可決となった。

・ 原子燃料分科会意見対応の結果，第76-3原子力規格委員会での中間報告から変更となった部分は2.1節のマネジメントに係る一般事項，2.2.3節の適格性評価の品質保証，2.3節の取安解析コードの管理方法，附属書D及びEがある。
・ 最新知見としては，国内外の原子炉施設の運転経験（トラブル情報等）から得られた知見，国内外の研究・開発の成果（学術論文，報告書等），国内外の規格・基準の動向，国内の規制経験及び諸外国の規制動向を反映した。

主なご意見・コメントは以下のとおり。
・ 原子燃料分科会の書面投票の結果，可決となっているが，なぜ分科会において2回目の最終報告をすることになったのか。
→ 原子燃料分科会の書面投票の結果，可決となったが，保留意見に対応する中で，規程本文の変更を伴う，編集上の修正を超えた変更を行ったために，原子燃料分科会で再審議することになった。
・ 本件制定案の上程ということで，書面投票に移行するかについて決議を取りたいと考える。

○ 特に異論がなかったので，JEAC4215の制定案につい下記条件で書面投票に移行するかについて，規約第14条（決議）第1項に基づき，決議の結果，全員賛成で承認された。
・ 書面投票期間は，通常は3週間であるが年末年始を含むことを考慮し，12月22日（水）から1月20日（木）の30日間で実施する。規格案の修正を伴う場合には別途調整する。
・ 書面投票の結果，可決された場合は2ヶ月間の公衆審査に移行する。なお，公衆審査開始までの編集上の修正の範囲か否かの判断及び内容の承認については委員長，副委員長，幹事の三役に一任する。
・ 公衆審査の結果，意見提出がない場合は成案とし，発刊準備に移行する。
・ 公衆審査において，編集上の修正の範囲内での意見があった場合には，委員長，副委員長，幹事により，編集上の修正か否かの判断及び修正内容の承認を実施し，修正内容について委員に通知して，発刊準備に入る。意見の内容によっては，回答案について，委員会審議を行う。
・ 公衆審査において，編集上の修正の範囲を超える意見があった場合には，書面審議又は委員会審議により，別途審議する。
・ 公衆審査で意見が無く，以降発刊までの編集上の修正については，出版準備（校閲）の範疇として，分科会の責任で修正を行う。

(4) 規格の策定状況（中間報告）

1) JEAC4805「原子力発電所運転責任者の判定に係るシミュレータ規程」改定案

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査より，資料No.80-1-3-1シリーズに基づき，JEAC4805「原子力発電所運転責任者の判定に係るシミュレータ規程」改定案について説明があった。

主な説明は以下のとおり。
・ JEAC4805の改定の必要性については，制定から5年以上が過ぎていることから，定期改定として，制定後の運用実績の反映，最新のANSI/ANSの反映の要否検討，原子力発電プラントの廃止措置，中央制御室制御盤更新の対応及びその他として記載の適正化がある。
・ 改定スケジュールとしては，2022年5月から公衆審査を実施することを目標として，運転・保守分科会及び原子力規格委員会への上程を予定している。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

・ 資料No.80-1-3-1-②の14頁を見ると，この規程にはANSI，JIS Q 9001及びJEAC4111の最新版を反映しているということか。

→ そのとおりであるが，JIS Q 9001については，ユーザーである事業者が運用（QMS文書）として，まだ反映していない可能性がある。

・ 資料No.80-1-3-1-②の14頁の比較表を見ると，新旧が同じ内容になっているが，新しい方の年番等に修正する必要があるものと考える。

→ 修正する。

・ 異議がなければ，本件中間報告ということで，12月22日（水）から1月20日（木）の約1ヶ月間意見伺いとして，意見・質問があれば事務局までお願いする。

2) JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査より，資料No.80-1-3-2シリーズに基づき，JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

・ JEAG4802の改定の必要性としては,前回の改定から4年経過していることから,改定後の運用実績反映,国内外の最新知見の反映，その他として記載の適正化がある。

・ 改定スケジュールとしては，2022年5月から公衆審査を実施することを目標として，運転・保守分科会及び原子力規格委員会への上程を予定している。

・ 本件も中間報告ということで，12月22日（水）から1月20日（水）の約1ヶ月間意見伺いとして，意見・質問があれば事務局までお願いする。

(5) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

1) 活動の基本方針改定について（審議）

事務局より，資料No.80-1-5-1シリーズに基づき，活動の基本方針改定について説明があった。

審議の結果，活動の基本方針について，今回の改定案に加えて，今回審議結果を踏まえ改定し，正式な活動の基本指針とすることについて決議の結果，全員賛成で承認された。

主な説明は以下のとおり。

・ 改定の背景としては，2020年3月3日の第65回基本方針策定タスクにおいて，活動の基本方針については原子力規格委員会を取り巻く情勢を反映するため，毎年内容を確認することになり，加えて2021年9月16日の第71回基本方針策定タスクで12月に改定することになり，基本方針策定タスク委員から改定要否の意見募集を行うことにした。

・ 今回の改定内容等としては，1.目的で委員会の定義の明確化し，3.活動の心得において，委員，常時参加者の記載を一つにまとめた。また，3.活動の心得の記載内容の修正し，5.1原子力安全向上に向けた活動の強化及び5.2 委員会における重点的な規格整備活動において学協会規格高度化WGの記載を削除した。5.2委員会における重点的な規格整備活動及び6.1 原子力関連学協会規格類協議会との協調において記載をアップデートした。その他記載の適正化がある。

・　本原子力規格委員会で，今回の活動の基本方針改定の是非について審議頂き，承認された後に原子力規格委員会のホームページに掲載する。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

・　何点か教えて頂きたい点がある。文章はかなり読みやすくなっているが，3.1 委員及び常時参加者で心得の所で基本的コンセプトを出すところなので，文言が消えていたり，追加されていたら注目されるところだと思うので，全体を正しく認識するⅡの項目と，公平性とか利害関係の回避を一つにまとめているが，これ全部まとめて一つの項目ということでまとめたのか，そうではないのかというのが分からない。意図があるのであれば教えてほしい。5 章の所で学協会規格高度化 WG を削除したということだが，それ自体は適切かと思うが，WG で指摘をされている体系化に対する課題は解決したので削除して問題ないということなのか，それとも WG の文言は消さないといけないが，体系化をしていかないといけないという問題意識はまだ残っているので，今後とも取り組んでいくのかということに関しては，どちらの趣旨であるのかというのが二つ目の確認事項となる。三つ目は 5.2 節の所に規制当局及び事業者のニーズを適切に把握しという文言があるが，先に規制当局のニーズを把握するというのが日本電気協会としてどうなのかと思う。規制当局及び事業者のニーズと書いた理由が良く分からない。その次の四つ目の所 a.でリスク情報活用を強化と記載してあるが，改定前の文言を見ると，WG で指摘されていた耐震及び保守管理分野でのリスク情報活用となっているが，リスク情報強化に丸められているので，これは耐震とか保守管理分野ではリスク情報活用はなされたものであり，削除されていると外向きには見られてしまうと考えるが，それで本当に良いのか。以上四点がクリアーになっていることについて説明願いたい。

→ リスク情報活用を強化しという所については，今までの表現がむしろやや踏み込みすぎていたというか限定的過ぎた所があり，むしろリスク情報活用というものは，2 つの分野に限定されるものではなく，幅広く日本電気協会が所掌しているすべての分野に対しても適用されるべきであると考えたので，むしろ発展的に捉えて，何々分野に限定するものではないということで削除した。規制当局及び事業者のニーズを適切に把握しというのは，どちらが先に来るのかということに関しては，我々もはっきりした考えがある訳ではないが，原子力規格委員会は制・改定が必要と思われる規格のニーズを調査と書いてあるが，結局のところこれは規制のニーズ，事業者のニーズを把握するということであるので，むしろそれを明確に示したということにしている。高度化 WG の記述を削除したところについては，高度化 WG の趣旨というのは，ここで終わりと意識しているのではなく，この考え方というのは我々が常に持っていないといけない考え方なので，そこを無視しているつもりはないが，幽霊 WG になっている訳で，それを何時までも書いておくのは良くないので削除した。必要な文言についてはそのまま引き継いでいるということになる。3.1 節の所に関して，ローマ数字のⅠからⅣの部分であるが，これはⅠが委員及び常時参加者が考えておくべき最も重要な哲学。Ⅱが行動規範。Ⅲが自分たちの名誉を守るという意味での意識。Ⅳが自分の向上と人材育成というふうに，視点を整備する形で書いている。したがって行動規範がⅡに入っているので，その意味で色々な文言がここに押し込まれている。現行のローマ数字ⅠからⅢと 1）から 6）というものを，整備して考えると，先ほど言ったカテゴリーで書くのが適切であると判断するのでこのような形にした。

・　今の説明で非常にクリアーになった。高度化 WG を削除の所は，体系化のことが見えないような気がしたが，他の部分については完全に拝承した。

→ 体系化の話について言及するのを忘れていたが，原子力学会の方の WG として実施している，体系化の議論について，ここで読み込むかについて考えたが，現在これから先 3 学協会，その他の学協会も含めて，総合的に考えていく場として，規格類協議会を念頭に置いた方が良いかと考える。そこについてはあえて言及はしていない。なので，体系化という文言については活動の基本方針から消えてしまっているのは確

かである。ただ今後色々な形で体系化の話が出てくると思うので，それについては新しい活動が見え次第，活動の基本方針の方にアップデートしていきたいと考える。現時点ではこの記述がせいぜいなのかと考えている。

・ 倫理教育とか新人教育とかで周知できると良いかと考える。

・ 1 点だけ，先程の意見でもあった，規制当局及び事業者のニーズを把握しという所に関して，先日の日本電気協会のシンポジウムで，原子力規制庁からも，あまり技術評価ということに囚われず進めてほしいとの意見もあった。原子力学会標準委員会は，標準という名前の由来に，技術評価ということを念頭に始まるものではないという説明もあったと思う。これらを考えると規制当局のニーズが最初に来るのは，本当にそうなのかと思う。これはある意味日本電気協会はここを考えているという一つの意思表示にもなるが，本当にそうなのかを確認したいと考える。

→ 2 つの名詞のうちどちらが先に来るかについては，こだわりは無いので事業者及び規制当局と書き直しても全く問題ないかと考える。その後の a. b.を見てもらうと，先ず事業者のニーズがあり，その後に規制当局との対応が入ってきているし，もちろん ATENA との対応もあるが，まず日本電気協会として事業者のニーズがあり，リストとしては最初に来ているということもあるので，先程の規制に意識を向けた日本電気協会という意味ではないので，誤解のないようにお願いしたいと思う。2 つの意見があったので，事業者及び規制当局に修正したいと考える。

・ 規制当局及び事業者という記述は他の部分にもあるので併せて修正する。

・ 事業者及び規制当局のニーズということだが，規制当局に対して事業者と並んでニーズという形でそれを考慮するということは，決して日本電気協会が規制当局を特別に考えていることではなく，事業者と並んでニーズという形で進めていくという書き方なので懸念する必要はないと考える。

・ 原子燃料分科会の標準を色々と議論していた時に，事業者を主語にして規格を作るようにと何回も言われたが，そこのポリシーは変っていないという理解で良いか。

→ そのポリシーに関しては変っていない。

・ 本件審議事項ということで，決議に進みたいと考えるが如何か。今の議論だと規制当局及び事業者を，事業者及び規制当局に入れ替える修正を加えるということで，そのように修正した形で活動の基本方針修正による改定ということで，決議に移りたいと考える。

○ 特に異論がなかったので，活動の基本方針に対する今回の改定案に加えて，規制当局及び事業者を，事業者及び規制当局に修正したものに改定することについて，規約第 14 条（決議）第 4 項に基づき，挙手により決議の結果，全員賛成で承認された。

2) 第 7 回原子力規格委員会シンポジウムについて（報告）

事務局より，資料 No.80-1-5-2 シリーズに基づき，第 7 回原子力規格委員会シンポジウムについて報告があった。

主な報告は以下のとおり。

・ 日本電気協会主催の基に日本原子力学会，日本機械学会協賛により，オンライン形式で第 7 回原子力規格委員会シンポジウムを 10 月 6 日に実施した。

・ 講演の実施後に，福島第一原子力発電所事故後の 10 年間について，原子力規制庁，日本原子力学会，日本機械学会，電気事業連合会，原子力規格委員会でパネル討論を実施した。その後オンラインの挙手機能により質疑応答を実施し，最後に原子力規格委員会委員長より総括を述べて頂きシンポジウムをまとめた。

- 初めてのオンライン開催であったが，トラブル等は発生せず，参加者は総員で270名となっている。
- アンケートを踏まえた今後の対応としては，次回シンポジウム開催については，本来は6月開催が望ましいと考えるが，準備期間等も考慮し第7回と同様10月から11月開催としたいと考える。開催形式としては，対面式だけではなく，オンライン開催も視野にいれて検討していきたいと考える。テーマとしては，新検査制度の実施状況も踏まえたテーマとしたいと考えている。実施にあたっては来年3月までテーマ等について検討を進め，それを踏まえて講演者，パネリストの選定を実施し，9月に詳細プログラムを設定ということとしたいと考えている。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 第7回シンポジウムに関しては，オンライン開催ということもあり，出席者も多く盛況であったと考える。講演して頂いた方々には感謝する。今回の資料の中に講演資料も含まれているので参考にして頂きたいと考える。
- 次回シンポジウムは，来年の10月から11月ということで，一年後の開催となる。

3) 検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について（報告）

事務局より，資料No.80-1-5-3に基づき，検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 新検査制度に伴う規格の制・改定は発刊または発刊準備中となった。各委員の協力に感謝する。

4) 原子力規格委員会委員倫理の強化について（報告）

事務局より，資料No.80-1-5-4シリーズに基づき，原子力規格委員会委員倫理の強化について報告があった。

主な報告は以下のとおり。

- 原子力規格委員会には6月度に委員倫理の強化に関する計画書について報告を実施した。
- 原子力規格委員会でも委員倫理の強化に対するテキストを説明し，それに対する意見も募集し，テキストに反映できるものは反映している。
- 来年度4月になったら委員に配布することを予定している。今後継続的改善等を踏まえて本活動を進めていきたいと考えている。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 特になし。

(6) その他

1) 令和3年度原子力規格委員会功労賞の申請・選考スケジュールについて

事務局より，資料No.80-1-6-1に基づき，令和3年度原子力規格委員会功労賞の申請・選考スケジュールについて報告があった。

主な報告は以下のとおり。

- 現在原子力規格委員会で，功労賞に推薦する委員を募集しており，1月上旬に推薦を取りまとめる予定でいる。
- 1月下旬からから2月中旬にかけてメール審議により表彰候補者を選定する。
- 表彰式は第8回シンポジウムを予定している。
- 今回選考委員が変更となっている。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 特になし。

2) JEAC, JEAG（原子力編）全冊の電子書籍サービスについて

事務局より，資料No.80-1-6-2シリーズに基づき，JEAC, JEAG（原子力編）全冊の電子書籍サービスについて報告があった。

主な報告は以下のとおり。

- 本件については既に各委員にメールにて報告を実施している。
- 今般日本電気協会では原子力関連規のJEAC/JEAGに限り，日本電気協会のホームページから販売している規格については，全て閲覧可能な電子書籍サービスを実施している。その中で12月1日からさらに印刷が可能となっている。
- なにか疑問に思うこと等の意見があれば，原子力規格委員会事務局ではなく，日本電気協会の事業推進部に質問をお願いしたい。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 特になし。

3) ISO規格の検討状況について

日本電気協会ISO事務局より，資料No.80-1-6-3シリーズに基づきISO規格の検討状況について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 特になし。

4) 前議事録の確認

事務局より，資料No.80-1-6-4に基づき前回議事録の紹介があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- 正式議事録にすることについて，特にコメントはなく承認された。

5) 次回原子力規格委員会開催予定について

- 次回の第80-2回原子力委員会は12月23日（木）9時20分から12時を予定している。

以　上

別　紙

資料 No.80-1-1-1	原子力規格委員会 委員名簿 2021 年 12 月 21 日現在
資料 No.80-1-1-2	原子力規格委員会 分科会委員名簿（案） 2021 年 12 月 21 日現在
資料 No.80-1-2-1	取替炉心の安全性確認に用いる 解析コードの適格性評価規程（取安コード規程）(最終報告)
資料 No.80-1-2-2	取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程（案）JEAC 4215 -20xx
資料 No.80-1-2-3-1	取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程 規格記載修正比較表
資料 No.80-1-2-3-2	取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程 規格記載修正比較表（その 2）
資料 No.80-1-2-4	第 76-3 回原子力規格委員会　コメント及び対応方針案
資料 No.80-1-2-5-1	第 49 回原子燃料分科会の書面投票時のコメント及びその対応方針案
資料 No.80-1-2-5-2	原子燃料分科会の 2 回目書面投票時のコメント及びその対応方針案
資料 No.80-1-2-6	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.80-1-3-1-①	原子力発電所運転責任者の判定に係るシミュレータ規程（JEAC-4805）の改訂について
資料 No.80-1-3-1-②	JEAC4805-202X 改定作業 －JEAC4805-2014 と改定案との全文比較表
資料 No.80-1-3-1-参考	JEAC4805 改定案（中間報告）に関する運転・保守分科会から頂いた意見等
資料 No.80-1-3-2-①	原子力発電所運転員の教育訓練指針(JEAG4802)の改訂について
資料 No.80-1-3-2-②	JEAG4802-202X 改定作業 －JEAG4802-2017 と改定案との全文比較表
資料 No.80-1-3-2-参考	JEAG4802 改定案（中間報告）に関する運転・保守分科会から頂いた意見等
資料 No.80-1-5-1	原子力規格委員会 活動の基本方針の改定について
資料 No.80-1-5-1-添付 1	活動の基本方針 新旧比較表
資料 No.80-1-5-1-添付 2	活動の基本方針 改定の論点と対応案
資料 No.80-1-5-1-参考 1	活動の基本方針（改定案）
資料 No.80-1-5-1-参考 2	活動の基本方針の改定要否確認について
資料 No.80-1-5-1-参考 3	「1．目的」での「委員会」の定義徹底のため，記述を修正した箇所
資料 No.80-1-5-2	第 7 回 シンポジウム実施報告（案）
資料 No.80-1-5-2-添付 1	第 7 回 シンポジウムプログラム
資料 No.80-1-5-2-添付 2	学協会規格への期待 (佐々木様_ご講演資料)
資料 No.80-1-5-2-添付 3	規格基準に対する事業者の期待と今後の取組み (山中様_ご講演資料)
資料 No.80-1-5-2-添付 4	標準委員会の規格策定に向けた取り組みと今後の戦略 (山本先生_ご講演資料)
資料 No.80-1-5-2-添付 5	日本機械学会発電用設備規格委員会における規格策定活動について(加口様_ご講演資料)
資料 No.80-1-5-2-添付 6	日本電気協会原子力規格委員会のこれまでの取り組みと今後の規格整備について (阿部幹事_ご講演資料)
資料 No.80-1-5-2-添付 7	第 7 回 シンポジウム参加者について
資料 No.80-1-5-2-添付 8	第 7 回シンポジウム アンケート集約結果（案）
資料 No.80-1-5-2-添付参考	第 7 回シンポジウム電気新聞特集記事スキャン（貼合せ）
資料 No.80-1-5-2-別紙	アンケートを踏まえた今後の対応について（案）
資料 No.80-1-5-3	検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について（報告）
資料 No.80-1-5-4-①	日本電気協会 原子力規格委員会 委員倫理の充実 計画書（rev1.1）
資料 No.80-1-5-4-②	日本電気協会 原子力規格委員会『活動の基本方針（倫理事項）』の全委員での見直し検討計画書
資料 No.80-1-5-4-③	第 78 回原子力規格委員会 資料 No.78-4-2③-1 に関するご意見/対応リスト
資料 No.80-1-5-4-参考	【短中期計画】日本電気協会 原子力規格委員会 委員倫理の充実 計画書（rev1.1）
資料 No.80-1-6-1	令和 3 年度 原子力規格委員会功労賞 申請・選考スケジュール（案）
資料 No.80-1-6-2	パンフレット（電気技術規程・指針【原子力編】全冊の電子書籍サービス開始）

資料 No.80-1-6-2-参考	211118 お知らせメール
資料 No.80-1-6-3	ISO 規格の検討状況について
資料 No.80-1-6-3-添付 1-1	ISO DIS 18077 検討報告書【記入】
資料 No.80-1-6-3-添付 1-2	ISO DIS 18077 検討報告書 別紙 ISO commenting template【記入】
資料 No.80-1-6-4	第 79 回原子力規格委員会 議事録案

参考資料-1	日本電気協会 原子力規格委員会 規約
参考資料-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
参考資料-4	日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧